令和四年六月鹿ノ台川柳教室　優秀句

お題「夢」（連記）勝部乃り子選

古稀祝う母が微笑む夢枕　広子
夢枕亡夫の出番待っている　よう子
一人旅見果てぬ夢を今も追う　郁子
十億を当ててさめないご永眠　ちさと
四畳半徹夜で夢を語り合い　英二
夢に見たプーチンなんと土下座した　千楽
夢の中行って帰れる黄泉の国　登美
夢のない話ばかりが押し寄せる　えいじ
問い返す夢はあるんか日本国　幸男
夢の中地獄の底でもがく俺　基弘
灯台で少年夢を確かめる　ミノル
長い夢目覚めてみれば記憶なし　仁史
お帰りと寝言で迎え遺影みる　きよな
歳とともに夢も色褪せ進めない　哲子
寝る前に今夜みる夢決めておく　充
夢は夢足もと固め生きて行く　義雄
午前二時蛇にのまれて溶けてゆく　正清
秀　よい夢を見そう洗いたてのシーツ　アキラ
軸　夢覚めて浄土体験Ｕターン　乃り子

お題「ぐらぐら」奥村義雄選

踏ん切りが付かずグラグラしてる俺　基弘
地震かな実はめまいかフレイルよ　充
中八はぐらぐらします中七に　えいじ
大地震まずは原発気にかかる　アキラ
地震かと思えば目まい立ち眩み　英二
プロポーズ心決まらずぐらぐらと　登美
ぐらぐらとして半年の総入歯　正清
これならと片足立ちの十五秒　郁子
屋台骨ぐらぐらしてる日本です　英二
健康の自信が揺らぐ後期入り　アキラ
二度三度あった夫婦の震度六　哲子
予知しての震度体感でも恐怖　郁子
是か非かと揺らす心の尊厳死　よう子
熱湯の鍋に妬心を放り込む　正清
秀　別離の未練揺れながら封を閉じ　よう子
軸　差し水を妻に頼んで子を叱る　義雄

お題「割る」（共選）川崎ちさと選

原爆にクラック入り黒い雨　正清
ホールケーキ奇数で割ってかまびすし　郁子
ご近所の窓ガラス割るホームラン　義雄
安物の夫婦茶碗にご執着　えいじ
割った菓子大きさ違いかじってる　基弘
リス君の名人芸はくるみ割り　仁史
始めての株の投資が原価割る　登美
割りきった答えの裏にいる三者　よう子
世界割る戦争だれも笑わない　哲子
均等割りすいかを前にめぐる智恵　登美
腹わって子と対峙して道正す　乃り子
半分こ二人で分けるチョコモナカ　きよな
半世紀まだ夫婦でも腹わらず　乃り子
割り勘の計算だけは早い人　英二
秀　目つぶりて有精卵を割る勇気　正清
軸　玉音に日本が割れて語る民　ちさと

お題「割る」（共選）五十嵐千楽選

まき割りは昔昔は爺の役　仁史
割り勘の計算だけは早い人　英二
割り勘をリーダー少し多めにし　ミノル
子や孫の帰省湯割りはちと濃いめ　アキラ
均等割りすいかを前にめぐる智恵　登美
ホールケーキ奇数で割ってかまびすし　郁子
気になる子時間を割いてかわいがり　えいじ
手がすべり割れる置物呆然と　基弘
ご近所の窓ガラス割るホームラン　義雄
腹割って話した後の疎外感　広子
目つぶりて有精卵を割る勇気　正清
何事も割りに合わない世の常に　幸男
共闘の割れて勢い増すゆ党　郁子
半世紀まだ夫婦でも腹わらず　乃り子
秀　世界割る戦争だれも笑わない　哲子
軸　祖国ズタズタ幾たびぞピアノの詩人　千楽

自由吟　自選二句　柳号五十音順

物価高破れかぶれのダイエット　アキラ
生きてればいろいろあって当たり前

平和下のキエフ映像響く鐘　郁子
週便のトマトニキロでしのぐ夏

ＤＩＹ見事にはまり趣味となり　えいじ
面倒な遺産分割知らん顔

アミノ酸僕らもやはり宇宙人　英二
三万日生きてりゃ部品悪くなる

下校時に傘でお迎えやんだ雨
孔雀サボテン元気に花芽十三個　きよな

でしゃばりが和音乱してご献杯
切り通し越えて輝く雲の峰　ちさと

ゲルニカを再現させてなるまいぞ
翔平聡太いっそ政治も願います　千楽

接戦は勝負を分ける二軍力
いつからか肩にシップの助けあり　哲子

夜神楽の鬼面の内の仏顔
野仏も笑顔で許す盗み喰い　登美

終の棲みか切り売りされた五十坪
断捨離に捨て渋ってる自尊心　乃り子

楽しみの飲み会コロナ邪魔をする
ウクライナ負けるな世界は味方だ　仁史

去年には似合ったこれがもうアカン
取っておきのレシピで今日も上機嫌　広子

赤貧に訳など聞かぬついり雨
邪鬼に会い邂逅というもの静か　正清

芍薬も花に合わせた茎ほしい
ワクチンも次はモデルナ気合いいれ　充

夢がある元気一杯我慢する
腑に落ちぬ別れ話を直ぐに受け　ミノル

いややなあおかずけなして風呂は水
便利さが地球の命縮めてる　基弘

補聴器か値段で決める集音器
コマーシャル腰肩膝の痛み止め　幸男

精いっぱい残り時間を生きぬいて
無欲にはまだまだなれぬまだ逝けぬ　よう子

九条の理想世界の常識に
神は無理いずれ仏になるつもり　義雄

お題「若い」（互選）

④若くないこと思い知る年齢欄　郁子
あの頃は何でも出来る気がしてた　広子
八十五まだ若者と自負してる　仁史
若僧と呼ばれた頃の恋と夢　義雄
クラス会笑える程の若づくり　登美
遠のいた若い時代のロシア歌　郁子
若くない今日も自分に言い聞かす　アキラ
漱石も芭蕉も人生五十年　英二
⑤百歳でまた挑戦と堀江さん　千楽
⑥秀句
若いねと声かけられて老いをしる　乃り子
芽吹く枝ぐんぐん伸びて親を越す　きよな
若き日の苦労買わずに回るつけ　幸男
格差無い若さ眩しい通学路　広子

七月句会　事前投句　七月二十日十五時締め
「甘い」（互選）　「先生」（連記）えいじ
「もやもや」哲子　「流れる」（共選）郁子　義雄
自由吟（自選）　各二句
七月二十六日（火）勉強会　十三時開場・互選投票
ふれあいホール１Ｆ小ホール

自治連合会登録の文化クラブです。
句会見学大歓迎です。　左記へお電話ください。

問合せ
原　広子（７９・００６１）
野々村詮（０９０・６９６１・１２９２）